

はけの道

9月29日 (火) 薄曇り

★ 新型コロナウイルスの感染拡大により3月例会「砧公園」を最後にしばらく休会していたが、コロナも小康状態なので6ヶ月ぶりに散策の会を再開した。まだ新型コロナウイルスの流行は終息した訳ではないので、人混みのないコースということで国分寺崖線（はけ）の道を選び、3密にならないように気を付けながら歩いた。

今年の夏は記録的な猛暑であったが、彼岸の頃からようやく秋らしくなってきた。この日も薄曇りで、暑くも寒くもなく、散策には絶好の日和であった。

★ 午後1時30分に小金井駅前を出発。小金井街道を南へ4,5分歩くと国分寺崖線の縁に到着、そこから急な下り坂となる。小金井街道からそれて左の道を下るとすぐ金蔵院（こんぞういん）というお寺である。真言宗豊山派の寺で、約450年前の永禄年間以前に開山したと言われ、十一面観音菩薩が本尊である。小さな寺であるが本堂のほかに薬師堂、開星稲荷神社があり、本堂の左手前には弘法大師像が立っている。境内一面に白萩が咲き乱れ見事である。



金蔵院の山門



金蔵院境内に咲く白萩の花

★ はけの道は金蔵院の前から始まる。はけの道は国分寺崖線の下縁を通過しているため、左手は約15mの崖、右手は平地となっている。はけの斜面に沿って武蔵野の雑木林がグリーンベルトのように続き、かつては別荘地として大きな屋敷が多くあったが、最近では新しい住宅も立ち並んでいる。平地の方は湧水が豊富なことから石器時代から人々が暮らしていたようで、石器時代の集落跡も数多く見つかっている。

★ 金蔵院から500mほど歩くと左手に「はけの森美術館」がある。ここは1989年に中村研一記念美術館として開館したが、小金井市に寄贈され、2006年にはけの森美術館として開館した。中村研一は明治28年（1895）福岡県宗像市に生まれた洋画家で、大正から昭和にかけて活躍した。戦災で代々木初台にあった自宅とアトリエを焼失したあと小金井市に移り住み、昭和42年

(1967)に72歳で亡くなるまでこの地で制作を続けた。この日は残念ながら展示替えのため休館、カフェもお休みであった。

美術館の向かいの農家が自動販売機で栗を売っていた。我々が集まって覗いていると、主人が出てきて盛んに栗自慢を始めた。確かに大きくて立派な栗で、500g入りで400円と大変安いのでほとんどの人が買い求めた。我が家では栗ご飯にして食べたが実に旨かった。



はけの森美術館



はけに建つ住宅

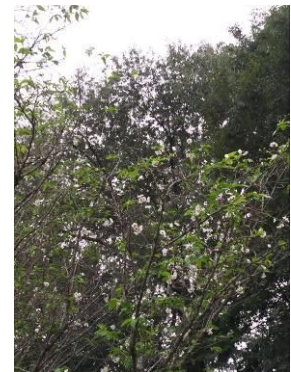
- ★ はけの森美術館から500mほど歩いて都立武蔵野公園に着いた。公園の中心は野川の右岸で、野球場やバーベキュー広場や原っぱ広場があるが、左岸は遊歩道があるだけである。我々は左岸を歩いたが川風が気持ち良かった。彼岸花が満開、ハナミズキは紅葉が始まっていて赤い実がなっていた。



彼岸花



ハナミズキ



十月桜

- ★ 武蔵野公園を出て西武多摩川線のガードをくぐると都立野川公園である。野川公園は武蔵野公園の1.5倍ほどの広さがあり、公園の真ん中を野川が流れ、東八道路が走っている。テニスコートやキャンプ場もあるが、大部分は芝生と林である。樹木の種類は88種、167本もあり、解説付きの樹名板が付いているので、これを見ながら歩くと楽しい。

公園内の休憩所で持参したおやつを食べながら休憩した。

- ★ 野川公園の正門を出るとすぐ右手に新選組局長・近藤勇の生家跡があり、300mほど離れた所にある龍源寺には近藤勇の墓がある。龍源寺から更に300mほどの野川に架かる相曾浦橋（あいそうらばし）のそばに大沢の里古民家がある。これはわさび栽培や養蚕などを行っていた箕輪家の住宅を解体・復元したもので、かつて農村であった三鷹の原風景を残している。ここは火曜日が休館日でそうで、建物の中に入ることは出来なかった。

古民家の前には湿性花園があり、夏には蛍が飛び交うという。
龍源寺前からバスに乗り、5時頃三鷹駅前で解散した。



金蔵院の白萩の前にて

志賀さんと桑田さんから俳句を頂きました。

白萩の 参道埋めし ハケの寺

水の秋 野川の流れ やさしかり

湧水の 小流れ浴いに 彼岸花 志賀 勉

はけの徑 農夫自慢す 栗を買う

多摩川線 音軽やかに 十月桜

稲架被う ビニールシート 野川かな 桑田 青三

参加者 桑田制三、小島恕雄夫妻、志賀 勉、水野聰夫妻、中村仁美 以上7名

写真と文 小島恕雄